

平成27年度

インテリア関係の調査・研究 活動報告書

「高等学校インテリア科使用教科書『インテリア計画』の  
教員用手引書ならびに資料集の作成」

平成28年 4月

全国高等学校インテリア科教育研究会  
「インテリア計画」手引書・資料集編集委員会

目次

1. はじめに . . . . . 2

2. 目的 . . . . . 3

3. 調査・研究活動内容と実施結果 . . 4

4. まとめ . . . . . 5

資料

## 1 はじめに

インテリア系学科を有する高等学校は全国に30校ほどある。これらの高校が集まり全国高等学校インテリア科教育研究会（略称：全イ研）を組織しているが、少子化を背景とした学科の統廃合が進んでいることもあって、加盟校は減少傾向にある。

また、その学校数故にインテリア科には文部科学大臣の検定を経て出版された民間の教科書、いわゆる「検定教科書」がなく、代わりに文部科学省が直接編集した教科書（文部科学省著作教科書）が用意されている。それが『インテリア計画』『インテリアエレメント生産』『インテリア装備』『インテリア製図』の4冊であり、全国のインテリア系学科ではこれらに適当な副教材や自作のプリント等を組み合わせ、毎日の授業を行っている。

ところで、これらの教科書は定期的に改訂され、次第に見やすくなってきているものの、今日の目から見るとどれも図版等が少なく、授業を聞いただけで生徒が全ての対象をイメージできるとは言い難い。また、教員の立場から見ても、対応する指導書が存在しないため、初めて担当する教員は教材研究に苦労していると聞く。さらに最近では学科の統廃合に伴って専門外の教員が配置されることも珍しくないから、このままでは講義中に両者の思い描くイメージの乖離はますます進行してしまうかも知れない。

こうした状況に対し、良い手立てはないかと全イ研でも度々話題に上がっていたが、この度、公益社団法人インテリア産業協会の協力を得て、改善に向けての第一歩を踏み出すことになった。それが今回の「教員用手引書ならびに資料集の作成」である。

専門高校の生徒達にはいつでも一定水準以上の教育を提供する義務があり、そのためにも教材研究等の環境を改善することは急務である。

今回の調査・研究活動の成果がその一助なれば幸いである。

本事業に参加したメンバーは以下の4名である。

全国高等学校インテリア科教育研究会（略称：全イ研）

「インテリア計画」手引書・資料集編集委員会

宮城県工業高等学校                      インテリア科    加藤 幸信

東京都都立工芸高等学校                  インテリア科    片山 路仁

東京都都立工芸高等学校                  インテリア科    斎藤 俊博

千葉県立市川工業高等学校                インテリア科    村川 剛啓

※この調査研究は、公益社団法人インテリア産業協会の

「インテリア関連調査・研究活動支援事業」助成金を得て活動しました。

## 2 目 的

今回の調査・研究の目的は、インテリア科教員の教育活動に役に立つような「手引書・資料集」（印刷物）の編集・作成である。

具体的には、教材研究のスタート時点で役に立つように、写真やイラストなどの視覚的情報を多く盛り込み、一目でそれぞれの項目の全体像を俯瞰できるようなものとする。また、授業に活用できる「板書例」や、教材研究を更に進める場合のヒントや資料の所在等のデータも紙面に盛り込む。

ただし、今回作成する手引書・資料集は、これで完結するものではなく、今後全国のインテリア科系教員の協力を得ながら順次改訂や分野の拡充を進め、そこから派生するものとして将来的には生徒が使う副教材も作成することも視野に入れた、試行的な第一歩と位置付けたい。

### 3. 調査・研究活動の内容と実施結果

#### ①作業の経緯

- ・機動的に動ける4人の編集委員を選出、編集方針の決定後はメール等で連絡を取り合いながら分担して調査をすすめ、4度の編集会議を開催しながら作業を進めた。
- ・最初の編集会議では、今回の調査・研究で扱う範囲や体裁を討議した。  
内容が多岐にわたる全ての教科書の手引書・資料集を作ることは当然ながら難しい。そこで今回はインテリア科系教科書の中から『インテリア計画』を選び、さらにそこから「インテリアエレメント」の範囲に対象を絞ることとした。これは『インテリア装備』『インテリアエレメント生産』でも扱っている重要な分野であり、それらの教科書を使う際にも利用価値があると考えたからである。
- ・扱う項目等や作業量などを検討し、見開き32ページフルカラーの構成を設定した。

#### ②資料等の収集・編集

- ・編集委員は編集会議までに検討資料等を収集する。教科書「インテリア計画」は内容が多岐に渡るので各編集委員で担当を決め、効率的に資料等の収集を行う。できるだけ『インテリア計画』の「インテリアエレメント」の章だてに近いものにしたかったが、他の教科書での利用も考え、最終的に次のようになった。

- 1 はじめに
- 2 インテリアエレメントの位置づけ
- 3 家具① [家具の分類1]
- 4 家具② [家具の分類2]
- 5 家具③ [名作椅子]
- 6 家具④ [人体系家具]
- 7 家具⑤ [障がい者、高齢者用家具]
- 8 照明① [照明の分類]
- 9 照明② [代表的な照明]
- 10 建具の歴史
- 11 カーペット
- 12 ウィンドトリートメント①
- 13 ウィンドトリートメント②
- 14 壁紙
- 15 インテリアグリーン
- 16 品質保証および表示制度

17 近代から現代の代表的な照明器具(付録)

18 近代の主な名作椅子(付録)

④手引書・資料集の印刷・配布等

- ・最終的に 100 部の印刷を行った。全国のインテリア系学科を有する高校へ 3 部ずつ配布する予定である。
- ・写真等のデータについてもデータの状態(DVD)で配布する。

4. まとめ

今回の調査研究活動は、「建築系の教科書には副教材が豊富に存在するのに、インテリア系には丁度良いものが見当たらない、ならば自分たちで作れないか」というのがそもそもの出発点であった。

まずは教員向けに小冊子の体裁で作ることにして作業をスタートさせた。

今回は「インテリアエレメント」の範囲に内容を絞ったが、それでも多岐にわたる内容や膨大な資料から取捨選択し、限られたスペースに簡潔にまとめるには、多くの時間を要した。また、用語の定義や解釈は資料ごとに違いがある上に、委員間においても対象の扱い方やまとめ方にばらつきが見られ、出来上がってみると、全体として統一感を欠く印象は否めない。それでも、今回の成果に今後多くの方の手で改良が加えられ、充実した手引書・資料集に育っていけば、手探りの教材研究を効率的にし、授業においては一定の水準を確保でき、最終的に生徒の理解が深まることに繋がることを確信している。

またそのことで最終的な目標である生徒が使用する副教材作成も視野に入ってくるものとする。そのために今後も内容をより充実させるべく作業を継続していきたい。

最後にご協力を頂いたインテリア産業協会に感謝の意を示してしめくりとしたい。